

令和7年度 事業報告

令和7年度は、東京2025デフリンピック競技大会及びミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会が開催されるなど、障がい者スポーツに対する社会的関心が高まった一年となった。これらの大会における選手の挑戦や活躍は、多くの人々に感動を与えるとともに、障がいへの理解や、多様性を尊重する意識の醸成にも寄与するものであった。

障がい者スポーツは、競技力の向上のみならず、健康の維持増進や生きがいづくり、さらにはスポーツを通じた社会参加や地域交流など、多様な役割を担うものである。特に、障がいのある人が身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができる環境を整えることは、誰もが活躍できる地域社会づくりの観点からも重要である。

また、広域である本道においては、地域ごとに活動環境や人的体制に差がある中、各地域の関係団体や指導者、ボランティア等の支えにより、障がい者スポーツ活動が継続されている。こうした地域に根差した活動は、本道における障がい者スポーツ振興の基盤として、大きな役割を果たしている。

当協会では、障がいのある人がスポーツを通じて健康で心豊かな生活を送ることができるよう、各種競技大会の開催や選手団の派遣、指導者養成事業等を実施するとともに、全道各地における障がい者スポーツの普及・振興と参加機会の拡充に努めた。

I 大会開催等の事業（公益目的事業1）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

1 大会開催事業

(1) 第63回北海道障がい者スポーツ大会

障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させるとともに、障がいに対する道民の理解を深め、本道における障がい者のスポーツのさらなる発展を目的として開催した。

本年度の大会は、9月に渡島管内の4市町で開催し、全道から約280名の選手が全4競技に参加した。コロナ禍以降では最大の参加者数となったものの、団体2競技で競技成立に必要なチーム数のエントリーがなかったことなど、依然として参加者数の回復が課題となっている。

しかしながら、開催地となった渡島管内からの参加が、全体の3割超と多くを占め、地域における障がい者のスポーツ振興を考えたとき、本大会の持ち回り開催の意義が発揮されている。

本大会は、全国障害者スポーツ大会に派遣する北海道選手団の予選会も兼ねており、陸上競技の参加選手を対象に、令和8年度に青森県で開催される全国大会の代表選手を選考する。また、団体競技については、競技成績が優秀だったチームのうち、出場要件を満たすチームを、青森県で開催される、北海道・東北ブロック予選会に派遣する。

- 開催年月日 令和7年9月28日（日）
- 開催市町村 函館市・北斗市・鹿部町・八雲町・七飯町・森町
- 参加人数 選手278人 引率役員等106人 合計384人

実施競技	競技会場	開催 月日	参加選手数
陸上競技	千代台公園陸上競技場（函館市）	9月28日	179人
バスケットボール	北斗市総合体育館（北斗市）	9月28日	43人 [4チーム]
車いすバスケットボール	鹿部町総合体育館（鹿部町）	9月28日	30人 [3チーム]
ソフトボール	八雲運動公園ソフトボール場（八雲町）	9月28日	26人 [2チーム]
サッカー	東大沼多目的グラウンド（七飯町）	9月28日	競技不成立
フットソフトボール	森町民野球場（森町）	9月28日	競技不成立
計			278人 [9チーム]

(2) 第45回北海道障がい者冬季スポーツ大会

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図り、希望と勇気を持って社会に参加するとともに、道民の共感を呼び起こし、共生社会の理念の浸透を促進させることを目的として開催した。

本大会はこれまで、大回転競技（アルペンスキー）と距離競技（クロスカントリースキー）の両競技を、同一の日程及び開催地において実施していたが、今大会では、大会の継続性の確保や競技運営の充実を図る目的で、別日程・別会場による分散開催とした。

このうち岩見沢市で開催予定であった距離競技は、少雪の影響によりコース設営が困難となったことから、苦渋の判断により中止とした。

美唄市で開催した大回転競技は、同日に開催されていたゴールドウイン ナスターレース ユースドリームグランプリ 2026 との合同開催により、競技運営の多くを共有できたことで、大会運営の内容が充実し、出場選手の満足感、達成感に大きく貢献することとなった。

本大会は、障害区分のほか、それぞれの競技レベルに合わせたランク毎に行い、全区分で伴走による出場が可能であることから、初心者からベテランまで参加がしやすく、積雪地である本道における障がい者のスキー競技振興を考えたとき、幅広い層が満足できる本大会を、継続して開催する意義は大きい。

■開催年月日 令和8年1月18日（日）・3月21日（土）

■開催地 岩見沢市・美唄市

■エントリー数 選手55人 引率役員等（伴走者含）39人 合計94人

実施競技	競技会場	開催月日	エントリー数
距離競技 ※開催中止 (Aランク3000m Bランク1200m Cランク600m Dランク100m)	東山公園陸上競技場 (岩見沢市)	1/18	31人
大回転競技 (Aランク500m Bランク400m Cランク300m)	美唄国設スキー場 (美唄市)	3/21	24人
計			55人

(3) はまなす車いすマラソン 2025

障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深めるとともに、社会参加への意欲を喚起し、広く道民に対して障がいへの理解を促進し、障がい者スポーツの振興及び共生社会の理念の浸透を図ることを目的として、ハーフマラソンとショートレースの2種目を実施した。

近年、道内選手の減少が顕著となっていたハーフマラソンについては、普及啓発事業であるスポーツ教室や用具（レーサー）の貸出と連動した参加促進の取組により、11名のエントリーを得ることができ、本道における車いすマラソンの振興に寄与する結果となった。このうち、特に若年層においては、児童期にショートレースへ参加した経験を経て本大会に臨む選手も多く、地域における競技力向上のロールモデルとなっている。

ショートレースでは、電動車いす使用者や伴走者とともに参加する選手も多く、初心者や重度障がいのある方の参加機会の拡充が図られた。コース上では、障がいの有無を超えてマラソンを楽しむ姿が見られ、インクルーシブスポーツを体現する大会となった。

各種目とも、札幌市中心部の駅前通りをスタート地点として実施したことから、選手にとっては市街地を疾走する爽快感を味わう機会となり、沿道の市民からは惜しみない声援が送られた。これにより、車いすマラソンの魅力を広く発信するとともに、障がい者スポーツへの理解促進と共生社会の実現に向けた機運の醸成に寄与した。

■開催年月日 令和7年8月30日（土）選手受付・説明会／31日（日）競技・表彰式

■開催地 札幌市（日本陸連公認「はまなす車いすマラソンコース」ほか）

■参加人数 選手100人 伴走者41人 役員等4,400人 合計4,541人

実施競技	競技コース	参加選手数
ハーフマラソン（公認コース） 21.0975 km	大通西4丁目スタート 新川西1-1（新川通）フィニッシュ	38人
ショートレース（オープン競技） 1 km・2 km	大通西4丁目スタート～南大通折り返し～ 北3条折り返し～フィニッシュ	62人
計		100人

(4) 競技別スポーツ大会（主催・共催）

障がい者が競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進や機能回復を促進し、参加者同士の交流を深めることにより、障がいに対する道民の理解を深め、社会参加への意欲の向上を図ることを目的として開催した。

各大会には、選手が全道各地からエントリーし、競技において競い合うだけでなく、選手間の活発な交流も見られるなど、スポーツを通じた社会参加の好機となっている。

開催大会のうち、タンデムサイクリングを除く6大会は全国障害者スポーツ大会の予選会を兼ねており、各選手は高いモチベーションで大会に臨んでいる。大会を継続的に開催することは、本道における競技レベルの向上に資するだけでなく、競技運営を担う各競技団体にとっても、障がい者スポーツ特有のルールを学び研鑽を積むとともに、障がいへの理解を深める機会となっている。さらに、障がい者スポーツを支える人材の拡充にも寄与している。

大会名・開催日・会場	参加選手数
第40回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会 令和7年6月22日(日) 月寒アーチェリー場(札幌市)	12人
第26回北海道ポッチャ選手権大会(共催) 令和7年8月17日(日) 道立野幌総合運動公園(江別市)	55人
タンDEMサイクリング大会 令和7年8月24日(日) セラミックアートセンター(江別市)	11人
第36回北海道障がい者水泳大会 令和7年9月14日(日) 平岸プール(札幌市)	74人
第28回北海道障害者フライングディスク大会(共催) 令和7年9月20日(土) つどーむ(札幌市)	124人
第37回北海道障がい者ボウリング大会 令和7年10月5日(日) GiGOボウル イオン札幌手稲駅前SC(札幌市)	36人
第37回北海道障がい者卓球競技大会 令和7年11月16日(日) 札幌市身体障害者福祉センター	125人

2 大会派遣事業

(1) 第24回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的に派遣した。

滋賀県の平和堂HATOスタジアム(彦根市)をメイン会場として、10月25日から27日の3日間の会期で行われた第24回大会に、選手団117名を5泊6日の日程で派遣し、選手72人が個人7競技と団体1競技の計8競技に出場した。北海道選手団のメダル獲得総数は63個であった。なお、諸事情により、個人競技の選手3名が、大会前に参加を辞退している。

本派遣に際しては、5月に強化合宿を実施し、競技力向上のほか、選手団としての団結力を深め、個人面談やスタッフミーティングにより、派遣期間中のサポート体制を確立した。また、北海道からの出発日には、新千歳空港内のパブリックスペースにおいて結団式を行い、障がい者スポーツと北海道選手団の存在をアピールした。これらにより選手の士気を高め、競技に集中できる環境を整備するとともに、道民が障がい者スポーツへの関心を寄せる機会となったばかりではなく、障がいに対する理解が深められ、共生社会実現への機運の醸成につながった。

■強化合宿 道立野幌総合運動公園(江別市)

第1班 令和7年5月9日(金)～11日(日) 水泳・アーチェリー・卓球・ポッチャ・ボウリング

第2班 令和7年5月23日(金)～25日(日) 陸上競技・フライングディスク

■選手団派遣

令和7年10月23日(木)～10月28日(火) 滋賀県 選手72人・スタッフ45人

■大会開催

令和7年10月25日(土)～27日(月)

■ 出場競技

競技名	競技会場	出場選手数	メダル獲得数
陸上競技	平和堂HATOスタジアム（彦根市）	27人	36個
水泳	インフロニア草津アクアティクスセンター（草津市）	10人	9個
アーチェリー	愛荘町スポーツセンター秦荘グラウンド（愛荘町）	2人	1個
卓球	野洲市総合体育館（野洲市）	11人	11個
フライングディスク	甲賀市水口スポーツの森（甲賀市）	8人	3個
ボッチャ	甲賀市水口体育館（甲賀市）	2人	1個
ボウリング	ラピュタボウル彦根（彦根市）	6人	2個
バレーボール（聴覚）	近江八幡市立運動公園体育館（近江八幡市）	6人	0個
計		72人	63個

■ 派遣選手選考委員会（第25回全国障害者スポーツ大会「青森県：令和8年10月23日～26日」
令和8年1月27日（火）かでの2・7会議室 出席委員8名

II 指導者育成等の事業（公益目的事業2）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

1 指導者育成事業

(1) 障がい者スポーツ競技指導者研修会

9月に開催した北海道障がい者スポーツ大会の競技運営を担った競技団体の審判員を対象に、大会前に指導者研修会を実施した。北海道障がい者スポーツ大会の実施競技のうち、障がい者スポーツ特有の種目やルールを有する競技をあらかじめ特定し、研修を行った。

道南陸上競技協会の会員を対象とした陸上競技の研修会は、千代台公園陸上競技場で2回開催した。1回目の研修会は6月に座学を中心とし、2回目の研修会は、北海道障がい者スポーツ大会の前日に、競技規則や障害区分などについて競技場内で研修を行った。

車いすバスケットボールの研修会は、大会開催地となった鹿部町のほか、一般のバスケットボール大会が行われていた函館市において実施し、モデルゲームを多くの来場者が観戦する機会を設けるなど、障がい者スポーツ普及の好機ともなった。

なお、フットソフトボールの研修会は、北海道障がい者スポーツ大会の同競技の競技成立に必要なチーム数のエントリーがなく、競技不成立となったことから中止した。

■ 研修会実施状況

研修会名	研修実施日	研修会場	研修者数
陸上競技審判研修会	令和7年6月8日（日） 令和7年9月27日（土）	千代台公園陸上競技場	43名 35名

車いすバスケットボール 競技審判研修会	令和7年8月23日(土) 令和7年8月24日(日)	函館アリーナ 鹿島町総合体育館	6名
フットソフトボール 競技審判研修会	※開催中止		

(2) 初級パラスポーツ指導員養成講習会

障がい者スポーツの指導者を目指す者を対象とした、日本パラスポーツ協会公認の初級パラスポーツ指導員養成講習会を3日間の日程で開催し、道内各地から23名が受講した。なお、1名が事情により一部の科目を受講できず、修了者は22名となった。

パラスポーツ指導員は、障がい者スポーツ指導で求められる専門的な知識、技能を有する人材の養成、資質向上を目的としている。このうち初級指導員は、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの楽しさや喜びを重視した、スポーツ参加のきっかけ作りを支援する者と位置付けられており、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担い、地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行う。

本講習会の実施により、本道の障がい者スポーツにおいて、必要な人材の養成と資質の向上を図ることができた。受講者の今後の活躍が期待される。

- 開催年月日 令和7年11月7日(金)～9日(日)
- 開催地 札幌市(北海道青少年会館コンパス)
- 受講者数 23名(修了者22名)
- 講習内容 全21時間(講義・実技)

2 普及啓発事業

(1) 障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入れる契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施した。

本年度は、14の教室に269名が参加し、卓球、水泳、ボウリングのほか、ふまねっとなどのニュースポーツを実施した。このうち、車いすマラソン教室の参加者のうち6名が、当協会主催のはまなす車いすマラソン2025にエントリーするなど、その後の発展へとつながっている。各教室とも参加意欲は総じて高く、地域に根差したスポーツ活動の発展に寄与している。

このスポーツ教室は、一過性の活動とならないよう、実施団体の自主性を重んじており、実施する競技種目は、地域のニーズに応じて選択し、講師の人選や会場の確保などの教室の運用は、地域で活動する障がい者団体や特別支援学校等が主体的に取り組んでいる。

■スポーツ教室開催状況

対象競技	教室実施日	教室会場	参加者数
車いすマラソン	令和7年5月24日	野幌総合運動公園陸上競技場	9名
水泳(2回)	令和7年7月13日	網走市西地域プール	8名
	令和7年7月27日	小清水町サンプル	8名

サウトテーブルテニス	令和7年8月17日	千歳市総合福祉センター	24名
ボウリング	令和7年10月12日	名寄朝日ボウル	41名
ふまねっと (3回)	令和7年10月8日 令和7年10月22日 令和7年11月12日	北見市総合福祉会館	20名 20名 20名
ヨガ	令和7年11月8日	新ひだか町ピュアプラザ	20名
ボウリング	令和7年11月6日 令和7年11月14日	網走ヤングボウル	14名 14名
ボウリング	令和7年11月29日	苫小牧中央ボウル	23名
ボッチャ	令和8年1月10日	サン・リフレ函館	17名
ボウリング	令和8年2月1日	網走ヤングボウル	31名
合計			269名

(2) 障がい者スポーツ用具の貸出

地域における障がい者スポーツの理解や促進、更なる活性化につなげることを目的として、障がい者スポーツ活動等を行う団体やグループまたは個人を対象に、スポーツ用具の貸出を行った。

本年度は、21件、延べ93点を貸し出した。このうち陸上競技用車いす（レーサー）について、はまなす車いすマラソンへの出場を目的とする場合に限り、長期貸出を可能とし、6台を貸し出したところ、全員が同大会にエントリーするなど、大会への出場が促進された。

障がい者スポーツ用具は、一般に高額な場合が多いが、無料での貸し出しにより、初心者にも取り組みやすい環境が整備され、障がい者スポーツの普及が図られた。

(3) 会報紙の発行

当協会の事業内容や活動状況などの情報発信を行うことを目的として、会報紙「飛躍」を隔月で年6回発行した。発行部数は500部で、当協会の活動に賛同し、ご支援いただく賛助会員や協力団体が定期購読しており、日本郵便の承認を受けた第三種郵便物として配送している。

会報紙は、当協会と賛助会員の信用と信頼の維持・向上に資する重要なツールでもあることから、大会開催など、当協会の各種事業の計画や報告について、写真を多用した読みやすい構成で、タイムリーに活動内容を報告した。また、継続会員及び新規会員のご芳名は速やかに紙面において公示して謝意を表するとともに、賛助会員には本紙を定期配送している。

(4) ホームページの運用

当協会の活動内容や最新の障がい者スポーツ情報をリアルタイムで発信することを目的として、ホームページを運用した。ホームページは検索性が高く、過去の情報にもアクセスしやすいことから、スポーツ事業情報や財務諸表などの情報公開は、継続的なデータ更新に努めるなどサービスの向上を図り、ユーザーの多様なニーズに応えている。

また速報性の高いSNSについて、Facebook、X（エックス）に加え、本年度よりInstagramの運用を開始し、ホームページとの連動を図りつつ、幅広い層に対する広報に努めた。

3 団体助成事業

(1) 障がい児者スポーツ団体助成

道内の障がい児者スポーツ団体の多くが、安定的な活動資金を確保することが困難な状況にあるが、活動の推進にあたっては、母体となる団体の活性化が重要となる。本事業では、道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的に、北洋銀行からの資金提供及び道の補助金により、19団体に各10万円、総額190万円を助成した。

■助成先団体（助成額：各10万円）

No.	北洋銀行助成金	北海道補助金
1	北海道ろう者サッカー協会（苫小牧市）	北海道FIDバスケットボール連盟（札幌市）
2	とうべつチャレンジドクラブ（当別町）	北海道ボッチャ協会（岩見沢市）
3	旭川リバーズ（旭川市）	北海道障害者スキー連盟（札幌市）
4	NEO PHOENIX（小樽市）	特定非営利活動法人 あ・りーさだ（夕張市）
5	札幌市障害者スキー協会（札幌市）	パラ・スポinえべつ実行委員会（江別市）
6	HASバスケットボール（苫小牧市）	特定非営利活動法人 札幌NFC（札幌市）
7	Team Paramount Adventure（札幌市）	北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ（札幌市）
8	北海道FIDバスケットボール連盟（札幌市）	TEAM COMRADE（東川町）
9	特定非営利活動法人 札幌NFC（札幌市）	北海道ローイング協会（札幌市）
10		北海道理学療法士会障がい者スポーツ支援部（札幌市）

4 表彰事業

(1) 特別賞

2025年11月に東京で開催された「第25回デフリンピック競技大会」において、メダルを獲得した道内ゆかりの各選手の栄誉を讃え、当協会から特別賞を授与した。

当協会の特別賞は、障がい者スポーツ競技において顕著な成績をあげた個人及び団体に贈られる賞で、今年度は、デフリンピックの各競技でメダルを獲得した6選手に、それぞれ表彰状と記念のトロフィーが贈られた。

■受賞者

氏名	主な成績			備考
沼倉 昌明	バドミントン	混合団体戦	金メダル	小樽市出身
森本 悠生	バドミントン	混合団体戦 男子ダブルス	金メダル 銀メダル	札幌市在住
川畑 菜奈	サッカー	（女子）	銀メダル	札幌市出身
川眞田結菜	水泳	4×100mメドレーリレー	銅メダル	北広島市
木村 亜美	卓球	女子団体戦	銀メダル	江別市
石原 美海	バレーボール	（女子）	金メダル	苫小牧市出身

Ⅲ 管理部門

1 会務状況

(1) 監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和 7 年 4 月 23 日	かでの 2・7 事務所	・ 令和 6 年度事業報告及び決算 ・ 理事の職務の執行

(2) 理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和 7 年 5 月 22 日	かでの 2・7 会議室	○ 第 1 回理事会 ・ 令和 6 年度事業報告の件 ・ 令和 6 年度決算書類の件 ・ 財務規程の一部改正の件 ・ 団体助成事業に係る助成先団体の選定の件 ・ 令和 7 年度定時評議員会の招集の件
令和 7 年 6 月 14 日	書面開催	○ 第 2 回理事会 ・ 会長、副会長及び常務理事の選任の件
令和 7 年 3 月 12 日	かでの 2・7 会議室	○ 第 3 回理事会 ・ 令和 7 年度収支補正予算書の件 ・ 令和 8 年度事業計画書及び収支予算書等の件

(3) 評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和 7 年 6 月 13 日	かでの 2・7 会議室	○ 定時評議員会 ・ 令和 6 年度決算書類の件 ・ 定款の一部変更の件 ・ 評議員 9 名選任の件 ・ 理事 10 名選任の件

2 公益法人の運営体制の充実を図るための取組

当協会では、公益法人としての適正な運営及びガバナンスの充実を図るため、理事会及び評議員会の開催に当たり、議案資料の事前配布を行い、十分な審議時間の確保に努めた。

また、法令遵守の徹底を図るため、公益法人制度に関する情報収集及び役職員への情報共有を行うとともに、個人情報の適正な管理に努めた。

さらに、中期的な視点に立った事業運営を推進するため、事業計画及び予算の進捗管理を行い、効率的かつ透明性の高い法人運営に取り組んだ。